クラス番号	622	担当教員名	清沢　真
テーマ	医療におけるソーシャルワークの実際		
著書･論文 研究課題等	・健康教室「登校拒否をめぐる諸問題」東山書房 ・30 年の歴史「短評」社会福祉研究鉄道弘済会 ・安城更生病院のあゆみ「医療社会事業」ニチモウ印刷		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：医療福祉の実践・チーム医療・地域医療の連携・ソーシャルワーカーの役割

【目的・内容・方法】

近年の急速に進む少子高齢化に加えて激変する社会経済情勢は、我々の生活面に大きな影響があります。医療においても疾病構造の変化と厳しい医療財政の動向に伴って、医療のあり方が大きく変わりつつあります。こうした中で医療ソーシャルワークは、患者が安心して医療が受けられ、患者やその家族が抱える経済的・心理的・社会的な問題の解決、調整の援助をしています。

今日、医療機関は社会のあらゆるシステムと連携して、患者やその家族が地域の社会システムとの連携を進め、地域での生活を視野に入れた、医療サービス、生活支援等を提供することが求められてきています。地域の中でネットワークを構築することも医療ソーシャルワークの機能に必要です。

私の勤めていた某病院でも高度医療に伴い、カルテ開示をはじめとする情報の透明性とインフォームド・コンセント等の説明責任を重視し、時代の要求に対応していくことが必須と考えられます。このための最良のツールとしては、電子カルテを中心とする医療情報システムの導入と情報の一元化、共有化がなされていました。その反面、ことばのコミュニケーション不足が生じ、「患者との対話」や「患者の自己決定」がますます重要になっています。

医療チームのあり方も変わり、医療ソーシャルワークの業務も変化しつつあります。良質な医療は医師だけではなく多くの医療従事者が関わり患者中心のチーム医療を進めることが最も重要であると思います。また、チーム医療の本質は、スタッフ一人ひとりの「より良い医療」に対する熱意と、そのために周囲と対話していこうとする努力ではないかと思います。

このゼミのあり方は、医療ソーシャルワークとはいったい何をするのかをケース事例を通して理論と実践を十分に考え学習し、単なる知識として取り入れるのではなく、自分なりの関心・興味・問題意識をもって受け止め、理解するようにしていくことであります。又、関連する事象に広く目を向け好奇心を持って調査をするとか、疑義が生じたりした場合にはあいまいにしないで確認してみることが大切ではないかと思われます。依存的、受身的な在り方でなく、自立的、積極的なあり方で病気を抱えている患者・家族の生活問題に直面して苦闘している人に共感的理解に徹すれば、道は必ず開けていくといってよいと思います。

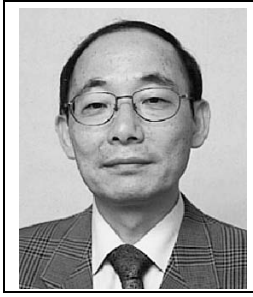
【ゼミの流れ】

3 年生では、最初にゼミ生が病院の一日見学実習を体験します。

患者にとって「より良い医療、より良い病院とは」何か、各自が実習体験のなかで学んだことを、発表して討論をしていきたいと思います。次に、医療ソーシャルワークを取り巻く環境の変化に退院関係調整援助問題の業務が大半を占めています。退院後の生活を患者家族の状況を踏まえた上で「社会資源とネットワーク」について取り組み研究していきたいと思います。

4 年生では、各自の研究テーマに基づいた卒業論文に取り組み、その個々の進捗状況や成果等を発表しあい、ゼミ全体で学習会を進めていきたいと思います。

担当教員からのメッセージ



ゼミのメンバー自らがほんらいの「主体的」「独自的」「創造的」なあるべき姿を発揮できるゼミ活動にして、みんなで一緒に楽しいゼミにしていきたいと思います。